

# 第10回 五ヶ瀬川水系等浸水被害及び土砂災害軽減対策協議会

## 1. 概要

第10回協議会では委員名簿の変更に伴う規約改定が行われ、長年アドバイザーとして教示頂いた宮崎大学名誉教授杉尾氏の後任として宮崎大学入江教授に加わって頂いた。また、各機関より協議会の取組方針に基づく令和4年度の実施内容について報告が行われ、アドバイザー入江教授からは、今回の台風14号を教訓に減災の取組を検証し改善していく動きが非常に重要であり、今後も精査をお願いしたいとの意見があった。協議会としては、引き続き減災取組について関係機関で連携して進めていくこととした。

## 2. 実施状況

○日時：令和5年3月28日(火) 14:30～ ○場所：延岡河川国道事務所 3F 会議室及びweb（併用）

○出席者：延岡市、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、宮崎県総務部、宮崎県県土整備部、宮崎県延岡土木事務所、西臼杵支庁、熊本県知事公室、熊本県土木部、熊本県阿蘇地域振興局、熊本県上益城地域振興局、大分県土木建築部、大分県生活環境部、大分県佐伯土木事務所、気象庁宮崎地方气象台、九州電力(株)、宮崎大学、延岡河川国道事務所

## 3. 議事内容

アドバイザーの変更に伴う規約の改定について

## 4. 協議会の取組方針に基づく実施状況について

- 延岡河川国道事務所：住民の水害リスクに対する理解促進の取り組み  
：スマートフォンによる防災講座の検証：令和4年9月台風14号  
：学校教育機関を対象とした防災教育の推進  
：災害拠点病院の施設関係者への情報提供  
：自ら判断して避難できる人材育成を目的とした水防災教育の推進  
：多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号  
：重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認  
：水害リスクマップの作成等、天下地区河川防災ステーション整備
- 宮崎地方气象台：多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号
- 延岡土木事務所：要配慮者等を対象にした避難体制の確立及び避難方法の周知  
：洪水予測や水位情報の提供の強化  
：防災啓発、防災力の強化、農業用ため池マップの公表  
：多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号
- 宮崎県西臼杵支庁：要配慮者等を対象にした避難体制の確立及び避難方法の周知  
：洪水予測や水位情報の提供の強化、防災啓発、防災力の強化  
：農業用ため池マップの公表  
：多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号
- 熊本県：水害リスク空白域の解消
- 大分県：中小河川等における避難行動支援の充実  
：おおいた防災VRや防災啓発動画による防災意識の醸成
- 延岡市：要配慮者利用施設における避難確保計画の策定促進と避難の実効性確保  
：富美山町北区におけるコミュニティタイムライン作成、避難訓練  
：自主防災組織や地域などでの防災講話等及び地区防災計画等の作成支援  
：LINE、防災アプリ、防災ラジオの利用登録の促進  
：避難所等の確保及び環境改善の推進  
：多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号
- 佐伯市：佐伯市ハザードマップ・防災マップ
- 高千穂町：高千穂町防災マップWEB版  
：ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取り組み  
：多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号
- 日之影町：防災拠点の整備、五ヶ瀬川陸間・樋門の点検及び操作訓練  
：多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号
- 五ヶ瀬町：防災拠点の整備、多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号
- 高森町：地域防災マップの作成
- 山都町：防災サイト

## 5. 情報提供

流域タイムラインの作成について



## 5. 主な意見・コメント等

(アドバイザー：宮崎大学 入江教授の意見)

### ◆大規模災害に対する様々な形での連携、ソフト対策の精査が肝要

- ・これまで個々で努力(対応)していたが、今後気候変動が進み、より規模の大きい災害がきた場合は自治体の範囲を超えて、様々な形での連携が必要となる。
- ・今回の台風14号を教訓に減災の取組を細かく検証し改善していく動き(例：タイムラインの取組等)が非常に重要となってくる。今後も精査をお願いしたい。